

編集後記

我々、和泉祭実行委員会は、後期試験に突入せんとする正月×日、産声を上げた。そして後期試験も終わった如月○日より本格的に活動を開始し、同月下旬には千葉県某所にて合宿なるものを持ち、僅か数日間ではあるが規則正しい生活を送り、昼夜基本方針を出す為に喧喧囂囂たる討論をした。にも拘らず、何ものも明確に文章化し、論理化し、レジュメとして外部へ提出することはできなかった。

だから弥生下旬、鎌倉由比ガ浜でのリーダーズ・キャンプに於いても、我々は、唇を噛み締めながら、ぐっと屈辱に耐えねばならなかった。そして卯月、新生生の登場と共に俄にキャンパスは賑わい、春休みのあの閑散とした光景はまるで夢のごとくに我々の脳裡から消え去ってしまった。

そして編集局員たる私は、原稿集めに目を三角にし、割付用紙の○○○○○に休むことなく追い回されたので、一段落ついた今も、○○○○○に似たもの、交差点の信号の○○○、学生服の金ボタンの○○○○○…etc.を見た日には(そう、毎日)独り住まいのアパートの薄暗い四帖半の一室で壓されるようになってしまった。

嗚呼、私は気が狂ってしまったのであろうか。否、否、最初から狂っていたのだ。そうなのだ、和泉祭などは気が狂っていなければとてもやり切れないのだ。“悲しくてやり切れない”のではないのだ。

結局、これは大学祭のパンフ。我々はやはり何かをやらうとしているのだが、21回も繰り返しているだけかも知れない様な変わりばえもしない大学祭のそのパンフ—21冊目の繰り返されたパンフ。

「くりかえしてこんなにもくりかえしくりかえして
こんなにこんなにもくりかえしくりかえしくりかえして
くりかえしくりかえしつづけてこんなにもくりかえしてくりかえし
いくたびくりかえせばいいのかくりかえす言葉は死んでくりかえすものだけがくりかえし
残るくりかえし(中略)お明日よ明日よ 何とおまえは遠いのだ。」—谷川俊太郎

発行：明治大学和泉祭実行委員会
発行責任者：辰尾修治
編集責任者：浦田英清
印刷：(株)イワタ印刷
Tel (262)6862

第21回和泉祭 実行委員会構成

委員長	辰尾修治(文 II)
副委員長	吉沢博幸(営 II)
事務局	山盛幸夫(政 II)
会計部	上埜 肇(法 II)
情宣部	大武徹夫(商 II) 浅川豊明(政 I)
企画部	岡田道夫(文 II) 高井哲雄(政 II) 関 清美(営 II)
事業部	塚田義広(文 II) 岩橋庸一(法 I)
庶務部	森島清光(法 II) 堀松弘嗣(商 I)
渉外部	吉沢博幸(営 II)
編集局	浦田英清(政 II) 遠山久雄(商 II) 清水和美(文 II) 河内仁夫(商 II)

賛助団体

合 気 道	映画研究会
ローバースカウト	放送研究会
アーチェリー部	美術研究会
応援団	広告研究会
少林寺拳法部	日本民謡研究会
空 手 部	音楽鑑賞クラブ